『筑波大学教育学系論集』執筆要領

『筑波大学教育学系論集』に「研究論文」または「研究ノート」を投稿するにあたっては、「『筑波大学教育学系論集』編集規程」のほか、以下の「執筆要領」に従うものとする。

１．原稿は、Ａ４判用紙縦置き横書きとし、単独執筆の場合は 20,000 字（１ページを全角 21 字×42 行×2 段とし、題目および執筆者のスペース（10 行×1 段）を含め 12 ページ）以内、共同執筆の場合は 40,000 字（24 ページ）以内を原則とする。英文要旨は本文の他に 1 ページを充てる。英文綴りや数値は半角とする。本文の他、図、表、注、引用文献なども制限字数の中に含むものとする。なお、提出原稿（本文）には、執筆者名を記載しないこと。

２．図・表等は、別紙にして、本文中の挿入箇所を、原稿の余白部分に指定すること。

３．注は、該当箇所の右肩に、(1)、(2)と表示し、論文の末尾に一括して掲げる。

４．注、引用文献については、出典、参考資料、典拠箇所のページ数、資料番号などを明示すること。ホームページから引用する際には、作成者、URL、参照年月日を明記すること。

５．執筆者による初校に際しては、原則として加筆は認められない。

６．原稿は、投稿論文募集の案内に従って提出すること。

筑波大学教育学系論集
英語論文執筆要領

2022 年 7 月 6 日

１．論文題目

- 論文題目は冠詞、前置詞、接続詞以外は語頭を大文字にする。
- 副題を付ける場合は、「：」を区切りとする。

２．英文アブストラクトと日本語要旨

- 英文アブストラクトは 300 words 程度とする。
- それとは別途、本文要旨を日本語で作成する。

３．本文の節

- 本文の節は、アラビア数字を用いて示す。

４．References

- References の記載の仕方は APA スタイルに従う。著者名、発行年、著書名（論文名、学術誌名、巻、号）、出版社の順に書き、DOI がある場合は最後にそれも示す。学術誌の場合は出版社は不要で、単行本中の章および学術誌の場合は掲載頁も示す【例②③】。
- 著書名、学術誌名はイタリックを用いる。学術誌に巻と号がある場合は「巻（号）」として、アラビア数字で記す【例③】。
- 日本語で書かれた文献を記載する場合は、書名をローマ字表記してから、英訳を［　　］の中に書く【例④⑤⑥】。
- 英語と日本語以外で書かれた文献を記載する場合には、書名を原典のまま示してから（ただしアルファベット等のラテン文字でない場合はラテン文字に翻字する）、その英訳を［　　］の中に書く【例⑦】。
- 以下に代表的な記載例を示す。それ以外の場合については各自で APA スタイルを参照して記載する。

References の記載例：

①英語文献（単行本）

Freedman, M. (1993). The kindness of strangers: Adult mentors, urban youth, and the new voluntarism. Jossey-Bass Publishers.

②英語文献（単行本の中の章）

Hogan, P., & Smith, R. (2003). The activity of philosophy and the practice of education. In N. Blake, P. Smeyers, R. Smith, & P. Standish (Eds.), The Blackwell guide to the philosophy of education (pp. 163–180). Blackwell Publishing. https://doi.org/10.1002/9780470996294.ch10

③英語文献（学術雑誌等掲載論文）

Inui, A. (1993). The competitive structure of school and the labour market: Japan and

Britain. British Journal of Sociology of Education, 14(3), 301–313. https://doi.org/10.1080/0142569930140306

④日本語文献（単行本）

Fujita, H. (1997). Kyouiku kaikaku: Kyouseijidai no gakkouzukuri [Educational reform: Development of schools in an era of coexistence]. Iwanami Shoten.

⑤日本語文献（単行本の中の章）

Sumeragi, N. (1996). Rinshou kyouikugaku towa [What is clinical pedagogy?]. In S. Wada & N. Sumeragi (Eds.), Rinshou kyouikugaku [Clinical pedagogy] (pp. 33–80). Akademia Shuppankai.

⑥日本語文献（学術雑誌等掲載論文）

Tsuneyoshi, R. (2000). Koukyouiku ni okeru hai-suteikusu (high-stakes) na kyouikukaikaku: Purinsu-Joujizu-gun no rikonsuthithushon [High-stakes educational reform in public education: Reconstitution in Prince George's county]. Kyouikugaku Kenkyuu [The Japanese Journal of Educational Research], 67(4), 417–426. https://doi.org/10.11555/kyoiku1932.67.417

⑦英語・日本語以外の文献

Molinari, E., & Labella, A. (2007). Psicologia clinica: Dialoghi e confronti [Clinical psychology: Dialogue and confrontation]. Springer. https://doi.org/10.1007/978-88-470-0554-9